

平成 29 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 30 年 3 月 31 日現在

研究課題名	マルク・シャガールとアブラム・エフロス	
申請者	氏名	所属機関・職
	藤田 智子	なし

研究成果の概要

ロシアの美術評論家アブラム・エフロスは、1918 年、初めてシャガールを論じたモノグラフ『マルク・シャガールの芸術』を著した（共著）。そして 1920 年、故郷ヴィテブスクを追われるようにモスクワに出てきたシャガールに手を差し伸べ、国立ユダヤ室内劇場にデザイナーとして推薦する。シャガールはこの招きに応じ、舞台装置や衣装のデザインに加え、100 名足らず収容の小さな客席ホールをユダヤ劇場への誘い等のパネル、天井画、舞台幕で埋め、その空間は”シャガールの小箱”と呼ばれた。

本研究では、シャガール自身やエフロスの残した文章その他参考文献と関連づけながら、『マルク・シャガールの芸術』の装丁に利用されたシャガールの自画像やユダヤ劇場への誘い等の図像解釈を深めることをめざしている。今回調査の主な成果は以下の通り：

- 『マルク・シャガールの芸術』はロシア語圏におけるシャガール研究の基本文献として名高い。そのマイクロフィッシュ版にセンターで会うことができた。北大図書館で他の関連資料にも当たった結果、同書の表紙となっているシャガールの自画像の前駆作品が見つかり、分析を進めている。（Эфрос А., Я. Тугендхольд. Искусство Марка Шагала. М., 1918）
- <ユダヤ劇場への誘い>には、エフロスがシャガールを抱きかかえて大股で前進するさまが描かれている。エフロス『プロフィール集』中の 1 章で”シャガールの小箱”制作前後の事情が述べられており、またリプリント版にはエフロスの略歴も添えられていた。シャガールの自伝や他の評者によるユダヤ劇場論と合わせて画像の意味を検討中である。（Эфрос А. Профили. М., 1994. (Reprint. Originally published: М., 1930)）
- シャガールの孫メレット・メイヤーによるシャガール伝の存在を図書館本館でご教示頂いた。本研究と並行して準備中のシャガールとメイエルホリドとの関わりを扱う論考にとって、この資料は必須要素となる。（M. Meyer, "Biographie," in P. Schneider, Chagall à travers le siècle (Paris: Flammarion, 1995), pp. 137-174）

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

特になし

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

特になし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。